

首長としての責任を「初動対応の不適切」にすり替える

お手盛り報告書！ 市民踏みつけの卑劣極まる川合市長！

昨年の台風21号による川越市寺尾地区の甚大な浸水被害について、川越市は「初動対応」の不適切を理由にした「内部検証結果報告書」を1月17日の記者会見で公表。

ずさんな川越市の災害対策の不備を、新聞各社が一斉に報じた。報告書の最後に川合市長の放った言葉が彼の冷酷な性格を露わに表現している。

市の対応の不備で物理的な被害が拡大したという認識はないなどと逃げている。罹災者に対し、川合市長には悔悟 反省の気持ちなど微塵 もじやもないのだ。

市職員の間でも「市長のGOさえあれば対処できた」市長は自宅に居て何もしなかったのに責任を職員に被している」と怒りを露わにしている。

川越市寺尾地区大水害」は

川合善明市長のリーダーシップ欠如による「大災」だ！

言うまでもなく、自治体の市長は災害等の有事には「現場」で指揮を執る。

事実、寺尾地区に隣接するふじみ野市では、迅速な対応で住民の被害は最小限に留まった。つまり、問題は市長判断であって初動対応という、あいまいな組織論が原因ではない。

即座に現場で指揮を執ったふじみ野市長に比べて、水害発生時に自宅で「得機」していたという川合善明市長。自宅で災害報告を受けながら、記者会見では「市長報告なくネットで知った」など、自己保身の為に職員に責任転嫁をして恥じない卑劣な男だ。

職員に指示を出す首長が「得機」とは、支離滅裂な釈明だ。権力保持と自己保身のために平然と職員を踏台にする冷酷な男だ。

30%減給パフォーマンスも「僅か2ヶ月」の無責任市長！

2月16日付の新聞各紙は、川合市長が20日からの定例会で「市長給与の30%減給」案を提出する意向を報じた。災害対策の不備と不作為を予想以上にマスコミで叩かれた川合市長の、今更の自己保身パフォーマンスだ。現在の市長給与「107万3000円」を「75万1100円」に減給するとのことだが、「僅か2ヶ月間限定」だ。金額にして「合計64万3800円」が、川合市長の寺尾地区住民への誠意ということになる。

被害に遭った寺尾地区住民が、自費での原状回復を強いられる中で、この事態を招いた元凶たる首長が「僅かる割減給を2ヶ月間」という茶番で責任を取った気になっているらしい。この立場が悪くなると手の平を返す。それも少額。恥ずかしくはないのか。

「他人ごと」同然の、異常な市民感覚の欠如！

新聞にも報じられたが、2011年の東日本大震災（3・11）発生時、全国の多くの市が市長を本部長とする災害対策本部を設置したが、川越市では「設置基準は震度5強。川越市の震度は5弱だった」などとして設置しなかった。

市の無策によって当日は、川越駅など主要地点では帰宅難民が溢れる混乱を招いた。東日本大震災は世界的に衝撃を与えた大災害である。一般市民の感覚：いや、一般国民の感覚としてさえ危機感を覚えた未曾有の災害から何も学ぶこともない川合市長は、本件寺尾地区浸水被害でも「危険性の認識がなかった」などと、全く同じ鈍感ぶりを露呈したのだ。

心ある市民は「川越市議会」に

厳しい追及の声を挙げよう！

本紙が交流する大手新聞記者の一人は「あれだけ疑惑や失態続きの川越市長は、なぜ失脚しないのか？」と首をひねる。原因はもちろん市議会だ。

本件水害の元凶であるばかりか、官製談話疑惑や不正市道認定の疑惑を突き付けられている「ブラック市長」を市のトップに放置して恥ないのか。その原因は市議会だ。市長を辞職に追い込める「百条委員会の設置」さえ怖がる市議たち。

闘っているのは、ほんの5、6人の市議だけで、他の市議は何らかの理由で市長の尻尾にブラ下がついているかのように市長擁護に回っている。

国政をみれば解るが、政権与党のたった一言でも厳しく追及するのが野党政治だ。川合市長を容認する川越市議会はオール与党ということか？

もしそのような市議会であるならば、市民をあざむく形式だけの市議たちだ。川合なる人物を市長として容認するような市議らの再選を許してはなるまい。

「市民社会の危機には無関心だが、自今の市長の座を失う危機感にだけは鋭敏に反応するのが川合善明という人物だ」

この市民たちの評は、まさに正鵠を射ている。